

高千穂商事、高千穂化学工業故江上正会長を偲ぶ会

4月16日に逝去(享年103歳)した高千穂化学工業及び高千穂商事の故江上正代表取締役会長を偲ぶ「江上正を偲ぶ会」受け



江上社長 田村元大阪酸素工業社長
祭壇は山梨工場(後に御坂山荘)があった御坂から社員が土を運び御坂の町をモチーフにして飾った

継がれる特殊ガスの魂の絆」が9月18日12時30分から、東京都港区六本木の国際文化会館で開催され、取引先や業界関係者、故人に縁のあった人など1110名(社員130名)が参集した。

開会の辞として、勤続50年という元町田事業所長の岡本康之役員補佐が「戦後の混乱期にベンチャーとして会社を立ち上げ、独力でのアルゴンガス精製技術開発をはじめ、江上会長自らが率先して特殊ガス関連の様々な技術開発を実践し、技術者としての精神を我々に遺してくれた。その功績をこれからの世代にも受け継がれることをテーマに本日の偲ぶ会を開催させて頂いた」と述べた。続い

て記念講演として、故人の卒業校である東京工業大学出身者で同大ベンチャーから会社を立ち上げたりパーフェイルドの原口大輔社長による「世界トップレベルの空圧制御技術を医療ロボットに、未来の技術を日本から世界へ」とレゾニックジャパンの川口卓志社長の「レゾニック技術の事業化と展開」が行われた。故人の歴史やインタビュー映像等がDVDで上映された後、半那純一東京工業大学名誉教授、元大阪酸素工業社長の田村公孝氏、トヨタテクニカルデベロップメントの高橋篤計測定分析室長による追悼の辞が述べられた。田村氏は「80年代半ばに大阪酸素工業が半導体材料ガス事業で苦戦していた頃、江上会長のお知恵を拝借したくしてお会い頂い

た。ビジネス上のお付き合いは少なかったが、親子ほどの年の差にもかかわらず個人的に親しくお付き合いさせて頂いた。ベンチャービジネスの先駆けであり、プレイヤーとしての半導体ガス関連企業が減っていく中でご自身と会社のポジションを維持されてきたことに敬意を表したい」と語った。

4月23日と24日に行われた葬儀の模様はDVD上映後、江上かおる常務、江上三紀取締役、江上真紀社長が謝辞を述べた。江上社長は「故人は常にサイエンスと向き合い、前進あるのみを実践してきた。本日は父と会社の歩みと、化学への貢献に繋がる事業活動を皆様知っていただきたく、このようなテーマで会を持たせて頂いた」と語った。